岩手大学教育学部研究年報　第67巻（2008．02）95～103

セルフエスティーム測定尺度作成に関する予備的研究

―注意欠陥多動性障害児に対する測定尺度をめざして―

伊　藤　道　子*・我　妻　則　明**

（2007年12月７日受理）

1　緒言

（1）はじめに

近年，不登校，いじめ，少年による異常な事件や犯罪が跡を絶たない。最近の子どもたちのこのような現象の根底には，心の問題が関係しているのではないか。セルフエスティームすなわち自尊心，自尊感情が低い，もとよりそれ自体を持てないことが，関係しているとも言われている（糸井・渡辺，2004）。

一方，注意欠陥多動性障害（ADHD）や学習障害（LD）が，マスコミなどでもよく取り上げられ，ブームと思われるほど多数の本も出版されている。その中でも，ことに，ADHD 児は「セルフエスティームが低い」と言われている（榊原，2003）。

ADHD は，注意力持続の困難，注意転導，過活動，衝動コントロールの困難を主要症状とした発達障害である。ADHD 児が，小さい頃から親や教師から，他の子どもの何倍も叱られて育っているという指摘は多く，ADHD 児のセルフエスティームは低いと言われている（齋藤，2002）。しかしながら，ADHD 児のセルフエスティームに関する先行研究はわずかである。

このセルフエスティームを測定する尺度として，ローゼンバーグの自尊感情尺度は，よく使われている尺度である。ローゼンバーグは，他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく，自身で自己への尊重や価値を評価する程度のことをセルフエスティームと考えている。また，自己に対して「非常によい」と感じる面と，「これでよい」と感じる面のうち，「これでよい」と感じる程度が高いほどセルフエスティームが高いと考えおり，セルフエスティームが低いということは，自己拒否，自己不満足，自己軽蔑を意味するとしている（遠藤他，1992）。ローゼンバーグはこのようなセルフエスティームを測定するために10項目からなる尺度を作成した。

我が国には，セルフエスティームを測定する標準化された尺度が存在しない。ゆえに，前述したローゼンバーグの10項目からなる自尊感情尺度の邦訳版を用いたり，そのローゼンバーグの自尊感情尺度と他の検査等を合わせたりすることにより，トータル的にセルフエスティームを測定している。しかしながら，最近，このローゼンバーグの日本語版の自尊感情尺度に対し，

* 岩手大学教育学部附属特別支援学校
** 岩手大学教育学部

疑問視する見方がある（田中，2000）。つまり，翻訳のしかたに，問題があるのではないかということである。また，単純にわずか10項目で本当にセルフエスティームが測れるのだろうか，との考えもありはしないだろうか。よって，セルフエスティームを測ることのできる信頼性と妥当性のある尺度が必要であると考えられる。

（2）先行研究

ADHD 児のセルフエスティームに関する先行研究はわずかである。

海外の文献について，2000年以前の自尊心を心理の問題として考えているものと，2000年以降の自尊心を脳・神経系の問題として考えるものとに二分している（石川，2002）。

中根（2002）は，ADHD の併発症に注目した研究では，自己評価の得点が低いとされるのは気分障害や不安障害を併発した場合であり，併発症のない場合には，対照群とのあいだに有意な差はないと報告している。また ADHD との合併症が多く認められている学習障害（LD）について伊藤（1999）によれば，1970年代後半から1990年代にかけて行なわれた LD 児の自己評価，自尊感情，コンピテンスの研究結果では，一貫した傾向がみられないとしている。

国内の文献では，増田他（1998）は，ADHD 患児に対して，自己尊重測定・エゴグラム検査・SCT 検査を用いて，自己尊重を測定した結果，健常児と比較し，ADHD 児の自己尊重得点は決して低くないと報告している。また，岡本（2001）は，入院期間中の ADHD 児に対し，ユース・セルフレポート検査による追跡調査を実施した結果，子どもの問題行動の改善は目に見えにくいが，自己洞察に変化があることを明らかにしている。

このように，ADHD 児のセルフエスティームは，健常児と比較して，結果は一致しない。これは，ADHD 児ひいては，健常児のセルフエスティームを測定する標準化された尺度がないことが，一つの大きな要因であると考えられる。

（3）研究目的

最終目的は，注意欠陥多動性障害（ADHD）児に対するセルフエスティームの信頼性と妥当性のある測定尺度の作成を目指している。そのうえで，本研究では，セルフエスティームを測ることのできる尺度作成のための予備研究を目的とした。具体的には，日本人の小学校高学年に適応可能な尺度の項目を作成することを目的とし，下記の 4 点とした。

①構成概念の検討：セルフエスティームの構成概念について明確化する。

②尺度項目の収集：セルフエスティームに関する関連尺度を収集する。

③小学生高学年用に改訂：収集された尺度項目を，小学生高学年用に改善する。そのようにして作られた質問紙に対する意味の理解度を調査する。そのうえで，小学生高学年に適応できるような項目へと改訂する。

④項目の決定：データから実証的に項目を決定する。

2　方法

（1）構成概念の明確化

構成概念を明確化するためにセルフエスティームに関する文献等（著者や論文）を調査した。

（2）尺度項目の収集

前述の明確化された構成概念に基づいて，関連する尺度の項目を収集した。

(3) 小学生高学年用に改訂

前述の収集された尺度の項目を以下の点に考慮して，小学生高学年でも使用可能なように改訂した。

・子どもには理解できないと思われる項目は，削除した。
・むずかしい表現はよりやさしい表現に改めた。
・すべての漢字にルビをふった。あるいは，ひらがなにした。

各項目の意味の理解度（意味がわかるかどうか）に関する調査を下記の手順で行なった。

①予備調査として，小学生高学年２名を対象児とし，以下の通りに実施した。
・筆者と対象児が１対１で行なった。
・意味のわからない項目をチェックしてもらった。
・具体的にどうわからないのかを，各項目ごとに説明してもらった。

②小学５年生１クラスに調査を実施した。質問紙の各項目について，意味が「わかる―わからない」の２件法で回答してもらった。筆者がＩ大学附属小学校に出向いて，５年生の１クラスに調査を実施した。

(4) 項目の決定

Ｉ大学附属小学校５・６年生を対象に以下の通りに実施した。
・筆者らが「あまり深く考えずに，第一印象で答えるように」と児童に教示した。
・特に名前は書かなくてよいことを教示した。
・特に時間を制限せず，全員に回答してもらった。

この質問紙の内容は，自分自身について答えてもらうもののため，対象児である小学生に対して，難しいという印象を与えかねない。ゆえに，質問紙には表示しなかったが，筆者らが「あまり深く考えずに，第一印象でこたえるように」と口頭で教示した。

その後，下記の統計分析を行なった（堀，2001a）。

項目の反応分布　反応分布が正規から大きく外れて偏りのみられる項目は削除した。つまり，ある項目に対する反応が極端に集中している場合，その項目は個人差を弁別する能力がないことになり，まず削除の対象となる。

Ｇ－Ｐ分析　特定の１つの項目の得点の動きが，全体得点の動きと関連しているかどうかを確認した。つまり，全体が測定しようとしているものと同じものを測っているかどうかを項目個々について調べる方法である。具体的にはすべての項目の合計得点を算出し，回答者を上位群と下位群とにわけ，両群の選択肢の選択状況から項目の良否を判断するものである。この両位群に検定などで差があるかどうかをチェックするのである。差がない場合には，全体の変動と当該項目の変動は関連しておらず，その項目は他の項目とは別のものを測っていると判断されるので削除の対象となった。

Ｉ－Ｔ分析　目的はＧ－Ｐ分析と同じである。項目全体得点と各単一項目の相関係数を求めた。何らかの基準で相関の低い項目を削除の対象とした。それには，ピアソンとスピアマンの相関係数を求めた。

因子分析　変数（項目）間の相関に基づいて，多くの変数間の関係や構造を分析する方法である。つまり，多くの変数の背後に，それ自体直接には測定することのできない因子が存在すると仮定し，その因子と変数（項目）の関係の強さを因子負荷量として計算した。このとき因

子は，測定しようとしている構成概念に相当する。したがって因子負荷量の低い項目は，構成概念とあまり関係しないと考えられるのでこれを削除の対象とした。

3　結果と考察

(1) 構成概念の明確化

発達していく過程において，私たちは，「自分はどういった特徴をもっているか」あるいは「自分自身に満足しているのか」といった自己に対する感情・評価に関心をもち始めていく。この自己に対する感情あるいは評価をセルフエスティームとよんでいる。人間は，およそ1歳半ころから自己の存在について認識し始めるといわれている。この年齢段階から，児童期さらには青年期へと移行する発達段階の中で，自己の身体的・外見的および内面的な特徴に対する関心が高まり，セルフエスティームが形成されていくのである（糸井・渡辺，2004)。セルフエスティームは，一般的に自尊心・自尊感情あるいは自己評価といったさまざまな用語に邦訳されている。

代表格とされる自尊感情尺度を作成したローゼンバーグは，「他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく，自身で自己への尊重や価値を評価する程度」をセルフエスティームと考えている。また，50項目からなる自尊感情尺度を作成したクーパースミスは，「自分自身に対する積極的および消極的な態度」をセルフエスティームの定義としている（遠藤他，1992)。

本研究では，セルフエスティームを「外見・性格・長所・弱点・特技など，自分のすべての要素をもとに作られる自己イメージに対して，自分の価値を評価し自分を大切にしようとする気持ち」（高山，1999）と定義した。

(2) 尺度項目の収集

関連尺度の項目を参照して項目群を作成した。具体的には，堀（2001b）でセルフエスティームを測定しているとして挙げられている自尊感情尺度，自己受容測定尺度，特性的自己効力感尺度と，インターネットの調査によって発見した Self Esteem Self Evaluation Scale（URL は，文献欄に掲載）の4つ関連尺度から項目を収集した。そして，英文については筆者が翻訳し117項目からなる質問紙を作成した。

(3) 各項目の意味の理解度（意味がわかるかどうか）に関する調査結果

小学生高学年2名による予備調査の結果　　2004年3月21日（小学4年生），4月10日（小学6年生）に前述した117項目の質問紙を用いて予備調査を行なった。なお，対象児の小学4年生についてだが，調査を行った2004年3月21日の時点で小学4年生であって，最も間近に新5年生をひかえていたということで，対象児とした。

その結果，どちらの対象児からも，自己受容測定尺度が「わからない」，「難しい」との意見が出された。この自己受容測定尺度は，各項目が文章ではなく，1つの単語によってできている。例えば，「1．性別」「2．顔立ち」などであるが，それぞれの単語の意味自体は理解することができるが，その自分の「性別」や「顔立ち」に満足できているかどうか，というのを，自分自身で評価することが難しかったようである。最終的に2名とも「難しい」，「全然わからない」とのことだった。よって，この自己受容測定尺度の32項目は，削除することにした。

その他，指摘してもらった表現をわかりやすくしたり，理解できない項目を削除したりして，再度吟味し直した。そして，71項目（自尊感情尺度８項目・特性的自己効力感尺度20項目・Self Esteem Self Evaluation Scale 43項目）からなる質問紙を作成した。

小学５年生１クラスによる調査結果　2004年８月18日に前項の結果によって作成された71項目の質問紙を用いて，小学５年生１クラスの38名に調査をした。その結果，「わかる」と回答したのは，項目全体平均90％であった。よって，そのまま71項目すべてを質問紙の項目とした。

（4）項目の決定

2004年９月１日（小学５年生），９月３日（小学６年生）計251名に，前述の71項目からなる質問紙を作成し，それにより調査を実施した。筆者を含め４名（Ｉ大学大学院生）が調査対象の小学校へ行き行なった。そして，その得られたデータから，以下のように統計分析を行なった。

項目の反応分布　表１に示す。反応分布が正規から大きく外れて偏りのみられる項目はなかった。ゆえに，削除すべき項目はなかった。

Ｇ－Ｐ分析　表２に示す。t 検定の結果，61項目が有意であった（$p < 0.05$）。

Ｉ－Ｔ分析　同じ表２に示す。Ｇ－Ｐ分析の結果により有意であった61項目は，すべてピアソンの相関係数が0.20以上であった。また，スピアマンの相関係数も，Ｇ－Ｐ分析の結果により有意であった61項目はすべて0.20以上であった。

因子分析　表３に示す。主成分解，バリマックス回転による因子分析を行なった。二因子以上を考えて，バリマックス回転をしてみたが，きれいに説明できる因子は抽出できなかった。ところが，第１因子の寄与率が17.8％と低いのではあったが，一因子のみを考慮すると，回転前の値が示す因子がＧ－Ｐ分析とＩ－Ｔ分析との結果とほぼ一致するものであった。よって，一因子で回転前に抽出された因子がセルフエスティームを適切に表わしている因子であると推察されたので，１因子解を採用した。Ｇ－Ｐ分析とＩ－Ｔ分析において選択された項目を考慮し，因子負荷量が極端に低い0.20以下の値の項目を除外してみると，Ｇ－Ｐ分析とＩ－Ｔ分析において選択された61項目から１項目だけを除いた60項目が選択された。因子負荷量のカットオフポイントを0.20と低く設定したのは，明確に尺度から離れた項目のみを除外し，多少関連の薄い項目でも今回は尺度に入れておけば，将来の妥当性と信頼性を検討する際に生かす可能性があるためである。つまり，たとえ因子負荷量が0.20 ～ 0.40の項目を因子分析の結果として今回尺度に入れたとしても，将来，妥当性と信頼性を検討する際に，それらの項目を入れた場合と入れない場合とでどちらが妥当性と信頼性が高いかの検討ができ，それらの項目を生かせる可能性を残すためである。

以上の結果より，Ｇ－Ｐ分析，Ｉ－Ｔ分析，そして因子分析の結果がほぼ一致していた合計60項目が選択された。

削除された項目の問題点については，まず，項目の訳し方についてである。項目は，無論，セルフエスティームの概念およびそれに似かよったものを集めて網羅した。項目を作成するにあたり，代表的なローゼンバーグの自尊感情尺度（遠藤他，1992）やアメリカで作成された項目を採用した。つまり日本語に訳す段階で，問題があると思われる箇所が多々あったのである。例えば，ローゼンバーグの自尊感情尺度も，日本でもよく使われているが，最近では，その日本語版の自尊感情尺度の検討がなされている。翻訳のしかたと日本の独特な文化と英語文化

（アメリカ文化）との違いが背景にあるのだと思う。本研究で削除された項目の理由の一つとして，そのようなことも関連していると考えられる。

4　本研究のまとめと今後の課題

本研究では，注意欠陥多動性障害児に対するセルフエスティームの測定尺度をめざして，予備研究を行なった。具体的にはまず，対象者を小学校高学年としたセルフエスティームを測るべく質問紙を作成した。その手続きとして関連尺度項目を収集した後，小学生高学年用に改訂し，その項目の理解度の調査を行なった。そして71項目からなる質問紙を新たに作成した。その質問紙を小学５・６年生に実施し，そのデータから項目を決定するために，項目の反応分布やＧ－Ｐ分析，Ｉ－Ｔ分析，因子分析を行い，60項目を選択した。因子分析を行なったゆえにこれらの項目は，内的一貫性が高いといえる。今後の課題としては，この選択された60項目の尺度に対する信頼性と妥当性の検討である。

文献

遠藤辰雄・井上祥治・蘭千尋（1992）セルフ・エスティームの心理学―自己価値の探求―．ナカニシヤ出版.

堀洋道（2001a）心理測定尺度集Ｉ―人間の内面を探る＜自己・個人内過程＞―．サイエンス社，26－43.

堀洋道（2001b）心理測定尺度集Ⅲ―心の健康をはかる＜適応・臨床＞―．サイエンス社，397－408.

石川元（2002）子どもの自尊心への対応．実践障害児教育，350，28－31.

糸井尚子・渡辺千歳，（2004）発達心理学エチュード．川原書店.

伊藤佐知子（1999）低年齢学習障害児男子のコンピテンスに関する研究．LD（学習障害）―研究と実践―，８（1），57－65.

増田ユキ子・福原昭二・望月紀子（1998）注意欠陥多動性障害（ADHD）患者の自己尊重―自己尊重測定とエゴグラム・SCT 検査―．小児看護，70－72.

中根晃（2002）ADHD の治療―精神医学的立場から―．臨床心理学，２（5），617－625.

岡本隆寛（2001）注意欠陥多動性障害児の入院治療における自己洞察の変化―ユース・セルフレポート検査より―．日本精神科看護学会雑誌，603－607.

齊藤万比古（2002）医療における ADHD と不登校の位置関係．現代のエスプリ，至文堂.

榊原洋一（2003）Dr. サカキハラの ADHD の医学．学習研究社.

高山恵子（1999）今，親にできること―よりよい親子関係のために―．NPO えじそんくらぶ.

田中道弘（2000）自己の評価的態度に見られる向上心― Self-esteem 尺度を援用した基礎研究―．人間科学論究，８，71―78.

http://www.mtnviewhospital.com/（2005.1.18）

表１　項目の反応分布

		1		2		3	
1	いろいろな良い性質をもっている。	99	39.4%	137	54.6%	15	6.0%
2	物事をふつうの人と同じくらいは、うまくやれる。	174	69.6%	60	24.0%	16	6.4%
3	自まんできるところがあまりない。	78	31.1%	71	28.3%	102	40.6%
4	自分自身をみとめることができる。	131	52.2%	89	35.5%	31	12.4%
5	だいたい自分に満足している。	109	43.4%	77	30.7%	65	25.9%
6	もっと自分自身をそんけいできるようになりたい。	172	68.5%	57	22.7%	22	8.8%
7	ほんとうにだめな人間だと思う。	26	10.4%	97	38.6%	128	51.0%
8	あまり役に立たない人間だと思う。	43	17.2%	102	40.8%	105	42.0%
9	自分が立てた計画はうまくできる自信がある。	81	32.3%	98	39.0%	72	28.7%
10	しなければならないことがあっても、なかなかやろうとしない。	79	31.5%	55	21.9%	117	46.6%
11	初めはうまくできないことでも、最後までやり続ける。	180	71.7%	48	19.1%	23	9.2%
12	新しい友達をつくるのが苦手だ。	44	17.5%	37	14.7%	170	67.7%
13	大きな目標を立てても、ほとんど成功しない。	45	17.9%	92	36.7%	114	45.4%
14	すぐにあきらめてしまう。	39	15.7%	52	20.9%	158	63.5%
15	困難なことをさけてしまう。	89	35.5%	73	29.1%	89	35.5%
16	とてもめんどうなことは、やりたくない。	94	37.6%	61	24.4%	95	38.0%
17	友達になりたい人でも友達になるのが大変ならばすぐにやめる。	15	6.0%	46	18.3%	190	75.7%
18	おもしろくないことをする時でも、それが終わるまでがんばる。	181	72.1%	50	19.9%	20	8.0%
19	何かしようと思ったら、すぐにとりかかる。	145	57.8%	51	20.3%	55	21.9%
20	新しいことを始めようと決めても、最初でつまずくとすぐにあきらめてしまう。	43	17.1%	59	23.5%	149	59.4%
21	思ってもみないような問題が起こった時、それをうまく解決できない。	85	33.9%	76	30.3%	90	35.9%
22	むずかしそうなことは、新しく学ぼうとは思わない。	22	8.8%	51	20.4%	177	70.8%
23	失敗するといっしょうけんめいやろうと思う。	192	76.5%	37	14.7%	22	8.8%
24	集団の中では、うまく行動できない。	55	22.0%	53	21.2%	142	56.8%
25	何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる。	147	58.6%	38	15.1%	66	26.3%
26	あまり人にはたよらない。	83	33.1%	89	35.5%	79	31.5%
27	自分から友達をつくるのがうまい。	116	46.2%	92	36.7%	43	17.1%
28	すぐにあきらめてしまう。	28	11.2%	70	28.0%	152	60.8%
29	友達よりも自分は悪い状態だと思う。	58	23.2%	119	47.6%	73	29.2%
30	幸せだといつも思っている。	117	46.6%	84	33.5%	50	19.9%
31	新しい環境になれるのが苦手である。	73	29.1%	40	15.9%	138	55.0%
32	会う人にはみんなに親しさを感じる。	107	42.6%	94	37.5%	50	19.9%
33	自分の欠点をいつも責める。	91	36.3%	92	36.7%	68	27.1%
34	毎日の生活にとても満足している。	125	50.0%	72	28.8%	53	21.2%
35	友達が自分のことをどう思っているのかとても気になる。	184	73.3%	28	11.2%	39	15.5%
36	友達の間違いをそのままにしておく。	23	9.2%	78	31.3%	148	59.4%
37	友達からみとめられたいと強く思う。	150	60.2%	70	28.1%	29	11.6%
38	あまり不安になったりなやんだりしない。	91	36.5%	47	18.9%	111	44.6%
39	失敗するとはらが立つ。	102	41.5%	55	22.4%	89	36.2%
40	いつも自信をもって新しいことに挑戦する。	118	47.6%	91	36.7%	39	15.7%
41	友達に悪口やもんくを言ったりすることがよくある。	61	24.5%	99	39.8%	89	35.7%
42	自分のことは自分で決定し、おこなう。	138	55.4%	87	34.9%	24	9.6%
43	自分がしたことに責任をもつ。	185	74.3%	55	22.1%	9	3.6%
44	友達や先生、親などに良く見られたいからうそをついたりする。	21	8.4%	63	25.3%	165	66.3%
45	自分の要求を優先することができる。	71	28.5%	125	50.2%	53	21.3%
46	自分の能力や成績を低く評価してしまう。	139	55.8%	59	23.7%	51	20.5%
47	自分の意見を自信をもって言うことができる。	92	37.1%	58	23.4%	98	39.5%
48	間違ったり失敗するといつも言いわけをする。	48	19.3%	76	30.5%	125	50.2%
49	よく友達の悪口を言う。	47	19.0%	72	29.1%	128	51.8%
50	喜びやいかり、悲しさなどを思うとおりに表現することができる。	143	57.4%	76	30.5%	30	12.0%
51	友達からの意見や態度にとてもきずつきやすい。	120	48.4%	65	26.2%	63	25.4%
52	友達のことを、うたがったりしない。	124	49.8%	74	29.7%	51	20.5%
53	友達を喜ばせることが得意である。	109	43.8%	105	42.2%	35	14.1%
54	本当の自分を知られたくない。	59	23.6%	80	32.0%	111	44.4%
55	友達にたいして、思いやりがある。	110	44.0%	124	49.6%	16	6.4%
56	失敗すると人のせいにする。	13	5.2%	81	32.4%	156	62.4%
57	一人でいるのが好きだ。	93	37.2%	53	21.2%	104	41.6%
58	すべてのことを完ぺきにやりとげたい。	145	58.0%	69	27.6%	36	14.4%
59	失敗がこわいので、新しい挑戦をしない。	16	6.4%	62	24.8%	172	68.8%
60	家族や友達の行動にたいし、どうしていいのかわからなくなることがある。	125	50.2%	64	25.7%	60	24.1%
61	自分の間違いや欠点をみとめる。	198	79.2%	40	16.0%	12	4.8%
62	新しい考えを積極的に取りいれる。	133	53.4%	88	35.3%	28	11.2%
63	どんな考えでもみとめることができる。	96	38.4%	95	38.0%	59	23.6%
64	自分の成績など、自分自身についてよく自まんする。	12	4.8%	58	23.2%	180	72.0%
65	どんなことでも自分で決定して、自分のすきなようにする。	47	18.9%	83	33.3%	119	47.8%
66	小さなことを気にしない。	129	51.8%	38	15.3%	82	32.9%
67	自分の行動をすかれようとは思っていない。	132	52.8%	76	30.4%	42	16.8%
68	自分のことが好きである。	97	38.8%	98	39.2%	55	22.0%
69	自分の好ききらいをはっきり言う。	118	47.2%	76	30.4%	56	22.4%
70	いつも人を喜ばせる必要はないと思う。	63	25.2%	67	26.8%	120	48.0%
71	家族のことについて自まんしない。	146	58.4%	61	24.4%	43	17.2%

表2　G-P分析　I-T分析

		G－P分析	I－T分析			
		T検定の有意確率	ピアソンの相関係数	有意確率	スピアマンの相関係数	有意確率
1	いろいろな良い性質をもっている。	0.00%	0.47	0.01%	0.45	0.01%
2	物事をふつうの人と同じくらいは、うまくやれる。	0.01%	0.39	0.01%	0.36	0.01%
3	自まんできるところがあまりない。	0.00%	0.40	0.01%	0.39	0.01%
4	自分自身をみとめることができる。	0.01%	0.51	0.01%	0.49	0.01%
5	だいたい自分に満足している。	0.00%	0.49	0.01%	0.47	0.01%
6	もっと自分自身をそんけいできるようになりたい。	19.10%	0.12	6.64%	0.10	14.44%
7	ほんとうにだめな人間だと思う。	0.00%	0.52	0.01%	0.56	0.01%
8	あまり役に立たない人間だと思う。	0.00%	0.55	0.01%	0.56	0.01%
9	自分が立てた計画はうまくできる自信がある。	0.74%	0.39	0.01%	0.35	0.01%
10	しなければならないことがあっても、なかなかやろうとしない。	0.02%	0.34	0.01%	0.35	0.01%
11	初めはうまくできないことでも、最後までやり続ける。	0.01%	0.41	0.01%	0.36	0.01%
12	新しい友達をつくるのが苦手だ。	0.01%	0.39	0.01%	0.34	0.01%
13	大きな目標を立てても、ほとんど成功しない。	0.01%	0.55	0.01%	0.56	0.01%
14	すぐにあきらめてしまう。	0.01%	0.48	0.01%	0.45	0.01%
15	困難なことをさけてしまう。	0.00%	0.53	0.01%	0.53	0.01%
16	とてもめんどうなことは、やりたくない。	0.00%	0.48	0.01%	0.48	0.01%
17	友達になりたい人でも友達になるのが大変ならばすぐにやめる。	0.01%	0.37	0.01%	0.34	0.01%
18	おもしろくないことをする時でも、それが終わるまでがんばる。	0.01%	0.38	0.01%	0.35	0.01%
19	何かしようと思ったら、すぐにとりかかる。	1.24%	0.34	0.01%	0.32	0.01%
20	新しいことを始めようと決めても、最初でつまずくとすぐにあきらめてしまう。	0.01%	0.44	0.01%	0.42	0.01%
21	思ってもみないような問題が起こった時、それをうまく解決できない。	0.00%	0.36	0.01%	0.35	0.01%
22	むずかしそうなことは、新しく学ぼうとは思わない。	0.01%	0.40	0.01%	0.36	0.01%
23	失敗するといっしょうけんめいやろうと思う。	0.01%	0.42	0.01%	0.38	0.01%
24	集団の中では、うまく行動できない。	0.01%	0.51	0.01%	0.49	0.01%
25	何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる。	0.01%	0.44	0.01%	0.44	0.01%
26	あまり人にはたよらない。	0.00%	0.40	0.01%	0.40	0.01%
27	自分から友達をつくるのがうまい。	0.01%	0.49	0.01%	0.46	0.01%
28	すぐにあきらめてしまう。	0.01%	0.57	0.01%	0.53	0.01%
29	友達よりも自分は悪い状態だと思う。	0.00%	0.48	0.01%	0.48	0.01%
30	幸せだといつも思っている。	0.00%	0.46	0.01%	0.46	0.01%
31	新しい環境になれるのが苦手である。	0.01%	0.39	0.01%	0.37	0.01%
32	会う人にはみんなに親しさを感じる。	0.00%	0.44	0.01%	0.44	0.01%
33	自分の欠点をいつも責める。	0.03%	0.39	0.01%	0.39	0.01%
34	毎日の生活にとても満足している。	0.00%	0.54	0.01%	0.54	0.01%
35	友達が自分のことをどう思っているのかとても気になる。	5.80%	0.25	0.02%	0.22	0.08%
36	友達の間違いをそのままにしておく。	0.04%	0.33	0.01%	0.34	0.01%
37	友達からみとめられたいと強く思う。	25.55%	0.02	76.19%	−0.00003	99.97%
38	あまり不安になったりなやんだりしない。	0.00%	0.39	0.01%	0.38	0.01%
39	失敗するとはらが立つ。	0.00%	0.39	0.01%	0.38	0.01%
40	いつも自信をもって新しいことに挑戦する。	0.01%	0.58	0.01%	0.57	0.01%
41	友達に悪口やもんくを言ったりすることがよくある。	0.00%	0.32	0.01%	0.34	0.01%
42	自分のことは自分で決定し、おこなう。	0.01%	0.38	0.01%	0.38	0.01%
43	自分がしたことに責任をもつ。	0.01%	0.41	0.01%	0.38	0.01%
44	友達や先生、親などに良く見られたいからうそをついたりする。	0.01%	0.32	0.01%	0.32	0.01%
45	自分の要求を優先することができる。	10.64%	0.14	2.86%	0.13	5.19%
46	自分の能力や成績を低く評価してしまう。	0.63%	0.29	0.01%	0.28	0.01%
47	自分の意見を自信をもって言うことができる。	0.00%	0.40	0.01%	0.40	0.01%
48	間違ったり失敗するといつも言いわけをする。	0.00%	0.46	0.01%	0.48	0.01%
49	よく友達の悪口を言う。	0.00%	0.35	0.01%	0.38	0.01%
50	喜びやいかり、悲しさなどを思うとおりに表現することができる。	0.01%	0.45	0.01%	0.43	0.01%
51	友達からの意見や態度にとてもきずつきやすい。	0.02%	0.35	0.01%	0.33	0.01%
52	友達のことを、うたがったりしない。	0.01%	0.36	0.01%	0.35	0.01%
53	友達を喜ばせることが得意である。	0.00%	0.42	0.01%	0.39	0.01%
54	本当の自分を知られたくない。	0.00%	0.44	0.01%	0.45	0.01%
55	友達にたいして、思いやりがある。	0.03%	0.37	0.01%	0.35	0.01%
56	失敗すると人のせいにする。	0.01%	0.38	0.01%	0.35	0.01%
57	一人でいるのが好きだ。	0.53%	0.35	0.01%	0.31	0.01%
58	すべてのことを完ぺきにやりとげたい。	79.61%	0.01	87.51%	0.01	83.64%
59	失敗がこわいので、新しい挑戦をしない。	0.01%	0.59	0.01%	0.55	0.01%
60	家族や友達の行動にたいし、どうしていいのかわからなくなることがある。	0.01%	0.46	0.01%	0.45	0.01%
61	自分の間違いや欠点をみとめる。	3.35%	0.16	1.30%	0.15	2.71%
62	新しい考えを積極的に取りいれる。	0.01%	0.40	0.01%	0.40	0.01%
63	どんな考えでもみとめることができる。	0.00%	0.41	0.01%	0.40	0.01%
64	自分の成績など、自分自身についてよく自まんする。	26.27%	0.06	37.78%	0.07	26.70%
65	どんなことでも自分で決定して、自分のすきなようにする。	52.41%	0.00	95.25%	−0.02	80.68%
66	小さなことを気にしない。	0.15%	0.30	0.01%	0.28	0.01%
67	自分の行動をすかれようとは思っていない。	86.72%	−0.02	77.64%	−0.006	93.12%
68	自分のことが好きである。	0.00%	0.58	0.01%	0.57	0.01%
69	自分の好ききらいをはっきり言う。	11.32%	0.11	10.78%	0.12	6.85%
70	いつも人を喜ばせる必要はないと思う。	0.27%	0.29	0.01%	0.26	0.01%
71	家族のことについて自まんしない。	21.70%	0.13	4.54%	0.13	5.23%

表３　因子分析

		因子負荷量	
	採用項目	尺度因子	その他の因子
1	いろいろな良い性質をもっている。	0.483	0.131
2	物事をふつうの人と同じくらいは、うまくやれる。	0.401	0.045
3	自まんできるところがあまりない。	0.418	0.166
4	自分自身をみとめることができる。	0.526	0.154
5	だいたい自分に満足している。	0.495	0.247
7	ほんとうにだめな人間だと思う。	0.534	0.104
8	あまり役に立たない人間だと思う。	0.575	0.056
9	自分が立てた計画はうまくできる自信がある。	0.385	−0.005
10	しなければならないことがあっても、なかなかやろうとしない。	0.352	−0.298
11	初めはうまくできないことでも、最後までやり続ける。	0.434	−0.092
12	新しい友達をつくるのが苦手だ。	0.383	0.137
13	大きな目標を立てても、ほとんど成功しない。	0.570	−0.118
14	すぐにあきらめてしまう。	0.514	−0.244
15	困難なことをさけてしまう。	0.558	−0.276
16	とてもめんどうなことは、やりたくない。	0.508	−0.397
17	友達になりたい人でも友達になるのが大変ならばすぐにやめる。	0.386	−0.235
18	おもしろくないことをする時でも、それが終わるまでがんばる。	0.395	−0.298
19	何かしようと思ったら、すぐにとりかかる。	0.324	0.000
20	新しいことを始めようと決めても、最初でつまずくとすぐにあきらめてしまう。	0.448	−0.034
21	思ってもみないような問題が起こった時、それをうまく解決できない。	0.350	0.140
22	むずかしそうなことは、新しく学ぼうとは思わない。	0.425	−0.179
23	失敗するといっしょうけんめいやろうと思う。	0.436	−0.053
24	集団の中では、うまく行動できない。	0.531	−0.050
25	何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる。	0.406	0.285
26	あまり人にはたよらない。	0.357	0.212
27	自分から友達をつくるのがうまい。	0.495	0.096
28	すぐにあきらめてしまう。	0.601	−0.121
29	友達よりも自分は悪い状態だと思う。	0.492	0.116
30	幸せだといつも思っている。	0.462	0.041
31	新しい環境になれるのが苦手である。	0.397	−0.050
32	会う人にはみんなに親しさを感じる。	0.454	−0.088
33	自分の欠点をいつも責める。	0.373	0.188
34	毎日の生活にとても満足している。	0.527	0.002
36	友達の間違いをそのままにしておく。	0.339	−0.200
38	あまり不安になったりなやんだりしない。	0.340	0.426
39	失敗するとはらが立つ。	0.396	−0.196
40	いつも自信をもって新しいことに挑戦する。	0.598	0.056
41	友達に悪口やもんくを言ったりすることがよくある。	0.330	−0.455
42	自分のことは自分で決定し、おこなう。	0.359	0.256
43	自分がしたことに責任をもつ。	0.434	−0.209
44	友達や先生、親などに良く見られたいからうそをついたりする。	0.329	−0.236
46	自分の能力や成績を低く評価してしまう。	0.281	0.255
47	自分の意見を自信をもって言うことができる。	0.379	0.360
48	間違ったり失敗するといつも言いわけをする。	0.457	−0.145
49	よく友達の悪口を言う。	0.362	−0.443
50	喜びやいかり、悲しさなどを思うとおりに表現することができる。	0.445	0.222
51	友達からの意見や態度にとてもきずつきやすい。	0.290	0.491
52	友達のことを、うたがったりしない。	0.351	−0.163
53	友達を喜ばせることが得意である。	0.415	0.165
54	本当の自分を知られたくない。	0.445	−0.009
55	友達にたいして、思いやりがある。	0.398	−0.189
56	失敗すると人のせいにする。	0.400	−0.279
57	一人でいるのが好きだ。	0.336	0.021
59	失敗がこわいので、新しい挑戦をしない。	0.609	−0.093
60	家族や友達の行動にたいし、どうしていいのかわからなくなることがある。	0.444	0.096
62	新しい考えを積極的に取りいれる。	0.402	0.310
63	どんな考えでもみとめることができる。	0.409	0.024
66	小さなことを気にしない。	0.257	0.356
68	自分のことが好きである。	0.597	0.082
70	いつも人を喜ばせる必要はないと思う。	0.284	−0.109
	除外項目		
6	もっと自分自身をそんけいできるようになりたい。	0.087	0.264
35	友達が自分のことをどう思っているのかとても気になる。	0.198	0.185
37	友達からみとめられたいと強く思う。	−0.018	0.009
45	自分の要求を優先することができる。	0.097	0.501
58	すべてのことを完ぺきにやりとげたい。	−0.020	−0.016
61	自分の間違いや欠点をみとめる。	0.159	−0.015
64	自分の成績など、自分自身についてよく自まんする。	0.055	−0.447
65	どんなことでも自分で決定して、自分のすきなようにする。	−0.052	0.407
67	自分の行動をすかれようとは思っていない。	−0.054	−0.066
69	自分の好ききらいをはっきり言う。	0.069	0.318
71	家族のことについて自まんしない。	0.118	0.176
	固有値	13.02	3.61
	寄与率	17.8%	5.0%